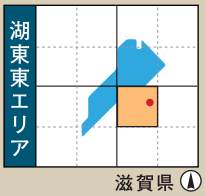
天然記念物

国指定

南花沢のハナノキ

みなみ　はな　ざわ

湖東町南花沢　大正10年3月3日指定



湖東町には天然記念物に指定された2本のハナノキがあります。南花沢・北花沢という地名は、指定されたハナノキからきたもので、この樹木が地域の人達に愛され、大切にされてきた様がうかがえます。南花沢のハナノキは、日本最大級のハナノキの巨木で、八幡神社の神木ともなっています。

ハナノキについて①

本州の岐阜、長野、愛知県の低山地の窪地や湿地に自生するカエデ科の高木です。滋賀県は自然分布域から外れていますので、指定されている2本の樹を含め現在見られるハナノキは他所から移植されたものと考えられます。『近江輿地誌略』（1734）に「花の木。南花沢村にあり、北花沢にも一株あり。異樹なり。古昔より其名をいわず。ただ花沢の木という。」という記事が見られることから、江戸時代には既に有名な樹木だったようです。

幹は直立し、途中で盛んに分枝し、通常の樹高は10～20m程度、樹幹は60㎝程度ですので、いかに指定木が巨木であるかがわかります。

（以下学習シートNo.120に続く）



南花沢のハナノキ



南花沢のハナノキ

南花沢のハナノキ

花沢のハナノキは、1200年前、聖徳太子が仏法の繁栄を祈願して、南北に1本ずつ刺した箸が太子の祈願どおりに大きく成長したという伝承があり、信仰の対象とされ、現在も病気平癒、安産の神として敬われています。実際の樹齢はよくわかりませんが、250年程度と推定されています。上部は2本に分かれ、樹幹は約5.2mもある最大級のハナノキで、春の彼岸の頃に小豆色の花を無数に咲かせ、秋には見事に紅葉します。近年、水源の枯渇、大気汚染により樹勢にやや衰えが見えたため、湖東町教育委員会の手により樹勢回復のための処置が行われています。この樹を失わないためにも、環境の保全を心がけることが、現代に生きる私たちの責務です。



南花沢のハナノキ



南花沢のハナノキ

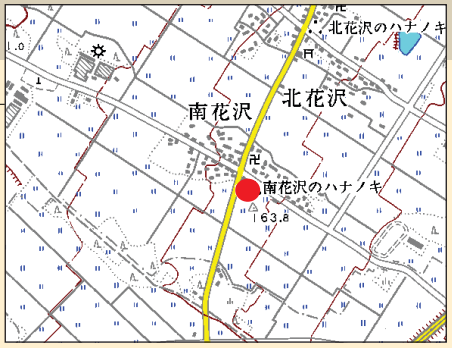
関連する文化財

北花沢のハナノキ（湖東町）	学習シートNo.120
新野のハナノキ自生地（長野県阿南町）	湿地帯が自生地となっていたが、近年改修され植え替えなどが行われている
坂本のハナノキ自生地（岐阜県中津川市）	疎林の中に散在し20株以上のハナノキを見ることができる。ハナノキの自生が確認された最初の場所である
越原ハナノキ自生地（岐阜県東白川村）	標高700mの山林中に目通り30cm以上の木が20本以上生育する。自生ハナノキの分布最北端に当たる
弥蔵薙ハナノキ（岐阜県付知町）	雑木林の中に生える単独樹。目通り3.15m、高さ15mの巨樹である

もっと深く知りたい

湖東町教育委員会　☎0749-45-3711　愛知郡湖東町池庄505

南花沢のハナノキへのアクセス　名神高速道路　八日市インター



【参考文献】〔日本の天然記念物〕講談社 〔滋賀縣天然記念物調査報告〕滋賀縣保勝會

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月